

4月11日（日）

今日は暖かく穏やかな晴れの日でした。

久しぶりに結婚式の斎主をしました。しかも2組合同の結婚式です。これは初めての経験でした。しかも屋外です。さらに公開結婚式ということで、ギャラリーが50人はいたと思います。一種のイベント的なものですが、雅楽の生演奏に御神楽奉納、誓盃（せいはい）の儀＝三々九度の盃と、本格的な結婚式でした。少し変わっていたことは、指輪の交換がなく、代わりに「結びの儀」を行ったことです。「結びの儀」という名称は私が勝手に名付けたものです。指輪を入れるようなケースに、ビー玉より小さなガラス玉が入っています。この玉を新郎が新婦に手渡す儀式です。このガラス玉は鏡師が磨き上げた特注品。玉は古代より王の権威を象徴するものとされています。日本でも天皇の代替わりには、鏡・剣・勾玉の三種の神器が受け継がれます。この勾玉（ビー玉のように丸くはありませんが）もまた、王の権威を象徴するものです。しかも丸いものは水晶玉のような魔力があるとされます。

こんなすごいものを妻に渡してしまった夫の行く末が案じられます。もう今日から尻にしかれているのかと思うと、あわれですね。